

平成21年度財団法人浜松市文化振興財団事業報告

(1) 事業の概要

平成21年度は浜松市においては「第7回浜松国際ピアノコンクール」「浜松モザイカルチャー世界博2009」の開催、県内においては富士山静岡空港の開港、「第24回国民文化祭・しずおか2009」の開催など、人・物・情報の交流が盛んとなった年度でした。

当財団のソフト事業の展開については、音楽の都づくりを目指し、ピアノコンクールの運営を中心として、多くの関連事業を開催いたしました。アクトシティ浜松を会場として中村絃子の素顔の魅力を伝えるトーク&コンサートを開催したほか、アクト納涼まつりに合わせた市民出演によるピアノコンサート、モザイカルチャーの会場やショッピングセンターでの「小さなピアニストコンサート」、浜北文化センターでの横山幸雄と假屋崎省吾のコラボレーションなど、財団の持つ人的、組織的ネットワークを活用してコンクールを盛り上げました。

市民と文化行政や文化団体、主催者と演奏家を繋ぐ中間支援機能としては、ポータルサイト「はまかるドットネット」の充実に努めるとともに、まちかどで演奏可能な場所を紹介していくOKステージ、ホテルや美術館、博物館のロビーコンサートへの出演者紹介など、新たな事業の試みも行いました。

また、市民グループ、行政、経済界、書道界などが一体となって制作した青春・教育映画「書道・ガールズ」では、実行委員会へ参加することにより協力を行い、浜松・浜名湖地域の文化振興と活性化に努めました。

指定管理では、アクトシティ浜松をはじめとする市内10施設を活用した事業を展開いたしました。このうち、クリエート浜松、浜松こども館、浜松市天竜壬生ホール、浜松市浜北文化センター及び浜松市森岡の家につきましては、今年度から新しい指定期間に入りました。浜松科学館や浜松こども館の出張事業を天竜壬生ホールや浜北文化センターで開催するなど、施設間の連携を強化し、広域的な事業の展開を心がけました。また、移転のために休館していた木下恵介記念館は、12月に浜松市旧浜松銀行協会と併せて再オープンしました。新たな文化施設、観光資源として広報PRに努めた結果、往年の木下映画ファンの間で話題となるのみならず、マスコミにも度々取り上げられるなど注目されました。

ア 芸術文化活動の企画、運営及び提供

浜松市内の文化団体や企業と共催で事業を開催するとともに、年度途中でも市民の文化振興に有益な事業と判断した場合は可能な限り実施できるよう積極的に取り組みました。

コンサートでは「モスクワ放送交響楽団」や、親子のためのクラシックコンサート「音楽の絵本」を開催し、トップレベルの演奏を提供しました。オペラでは「ベルガモ・ドニゼッティ劇場『椿姫』」を、5年ぶりとなったバレエ公演では「アナニアシヴィリ&グルジア国立バレエ『ロミオとジュリエット』」を、ミュージカルでは「ミッフィーこどもミュージカル」を開催しました。

また、毎年恒例の松竹大歌舞伎公演では、片岡仁左衛門らが『義経千本桜』などを熱演いたしました。

その他、ピアノコンクールのプレイベントとして開催した「中村紘子トーク&コンサート」や市内小中学校吹奏楽部とアーティストの合同演奏を行った「原信夫とシャープス&フラッツグランドファイナルコンサート」、企画段階から市内福祉団体と協力して開催した「スター混声合唱団ハートフルコンサート」など、当財団ならではの企画も好評を博しました。

イ 芸術文化活動の支援及び交流の促進

市民文化団体と連携して「浜松市民文化フェスティバル」や「浜松市芸術祭はままつ演劇・人形劇フェスティバル」を開催するとともに、財団の事業に賛同支援いただけるボランティアスタッフの募集・育成を行いました。

新市域の文化振興を図る事業として、「こどもミュージカル“この星に生まれて” 浜北版」を浜北文化センターで開催しました。また、「宮川彬良&アクトシティポップスオーケストラ」では、出演者を市内から広く公募し、合唱・吹奏楽・オーケストラ合わせて300人以上が参加した大規模な市民参加型イベントとなりました。このイベントでは、本番に先立ち「宮川彬良&合同バンドクリニック」を浜北文化センターにおいて行い、一流のアーティストから指導やアドバイスを受ける機会を浜北及び天竜地域の学生・指導者に提供しました。

平成19年度から引き続き企画、開催した吹奏楽作曲事業「バンド維新」では、富田勲、佐藤允彦、山下康介、北爪道夫等の著名な作曲家による吹奏楽のための委嘱新作を市内中学・高校の吹奏楽部が「全曲世界初演」するとともに、作曲家自身を招いて公開レクチャー・練習を行いました。こうした活動が、バンドジャーナル等の雑誌やマスコミにオリジナリティあふれる企画として多数取り上げられ、全国へ浜松をPRすることができました。

また、「はままつ文化サポート事業」の創設により、助成金等による中間支援機能の充実を図りました。

ウ 文化振興を担う人材の育成 「ジュニアオーケストラ浜松」及び「ジュニアクワイア浜松」の運営を通じて、将来を担う子供たちの育成を図りました。2回の定期演奏会だけでなく、公募で選ばれたこどもたちが熱演した「こどもミュージカル“この星に生まれて”浜北版」では、ジュニアクワイア浜松のこどもたちが昨年にひきつづき参加いたしました。また、フラワーパークで開催された「浜松モザイカルチャー世界博2009」では秋篠宮殿下もご参列された開会式で“モザイカルチャーポルカ”を披露するなど市主催イベントにも積極的に参加いたしました。また、アクトシティ音楽院事業では、世界で活躍する音楽家の養成を目指す「アカデミーコース（2事業）」から市民レベルの音楽文化の担い手を育てる「コミュニティコース（11事業）」まで幅広く人材の育成を行いました。

エ 芸術文化に関する調査研究及び情報提供

アクトシティ浜松友の会「ビバーチェクラブ」には、約6,000名が登録、主にアクトシティ浜松で開催される舞台公演年間約100公演について優先予約販売を実施しました。会員には隔月発行の情報誌「ビバーチェクラブニュース」や取扱公演チラシなどを毎月発送するなどの情報提供を実施し、公演の有力な購買層として浜松で開催される芸術文化事業を支える組織として認知されています。

また、財団ホームページ上で財団主催事業を中心に浜松で開催される芸術文化活動を紹介してきたほか、第7回浜松国際ピアノコンクールの開催にあわせてオンラインショップを開設し、コンクール公式プログラムやグッズ、出場者の熱演を収録したCDなどを全国に向けて販売いたしました。

浜松市と協働で開設した浜松市芸術文化情報ポータルサイト「はまかるドットネット」では、主に市内で開催される芸術文化活動の告知媒体として利用が進んでいます。また、市内で活動する文化団体や、浜松で活動を希望するアーティストの情報、市内文化施設の情報の紹介など、芸術文化に関する情報交流の拠点サイトとして活用されています。団体情報や施設情報は冊子「はままつ文化団体&文化施設」として紙媒体でも発行し、公民館、図書館等の公共施設に配布しております。

今年度は新規の取り組みとして「ランチタイムコンサート」も実施し、オーケストラアクトシ

ティホテル浜松ロビーほか3箇所で、市内で活動するアーティストの活動の場を提供しました。

オ 地域社会の活性化に資する事業

5月の浜松まつりに合わせた「アクトでやらまいか！ 浜松まつり」、8月の「納涼まつり」では、アクトシティ連絡会の一員として浜松の特徴を生かした企画の提案と運営に関わり、アクトシティでの賑わいを創出いたしました。地元企業を中心とした世界の縁日への出店参加や周辺地域の様々な郷土伝統芸能などの実施により、地域文化のアピールと共に、地域社会の活性化を図りました。アクトシティ連絡会では、浜松市の「冬の蛍」への連動とアクトシティへの動員を意図した「アクトシティ・アートワークファンタジア2009」を開催し、シヨパン像のライトアップと公園内樹木のイルミネーション装飾により、屋上公園からタワーを経て市民ロビーまでのコースを設定し、点在するアートワークを鑑賞しながら幻想的なイルミネーションを来場者に楽しんでもらいました。

また、アクトシティ浜松管理課では、アクトシティの施設全体の有効活用による周辺地域の活性化を図るため、近隣の医療機関など各種団体をはじめ、関東エリアの学会事務局や企業などを訪問し、アクトシティ及び浜松市のPR活動、コンベンション誘致活動を実施いたしました。

カ 浜松市の行う芸術文化事業の受託と協力

第7回浜松国際ピアノコンクールは、26ヶ国1地域229名の応募者の中から選ばれた22ヶ国1地域85名の若い優秀なピアニストたちを迎え、平成21年11月8日（日）から11月23日（月）までの16日間、アクトシティ浜松を会場に開催しました。イベントや楽器博物館のレクチャーコンサートなど、コンクールに伴う音楽文化事業を開催するとともに、市民参加型のコンクールとして、ボランティアやホームステイ・ホームコンサートの実施による国際交流の推進を図りました。

また、第14回浜松吹奏楽大会や市制施行98周年記念式典、パイプオルガンミニコンサートなどの恒例となった芸術文化事業を開催し、芸術文化の振興に寄与いたしました。

キ 公の施設の管理運営及び附帯事業

(ア) アクトシティ浜松

音楽、舞台芸術及び産業・コンベンション振興の拠点として活用されるべく、広報・誘致活動を行いました。浜松国際ピアノコンクール開催年度にも関わらず、利用料金収入が当初予算よりも下回る結果となりました。展示会の規模縮小による開催日数の減少や、展示会の会場が展示イベントホールから会議室へ変更されるなど、展示イベントホールの稼働率の減少が要因として考えられます。今後も展示イベントホールの稼働率向上を図るとともに継続的な営業活動やリピーターの顧客満足度向上を目指し、利用料金収入及び稼働率の向上に努めてまいります。

設備管理面では、電球・器具の省エネタイプへの交換や外灯照明の自動点灯化等の省エネルギー対策をさらに進め、光熱水費の削減ができました。また、官民共同事業体であるアクトタワー管理会社との連携を密にし、設備管理業務等の見直しにより管理委託費も削減すると同時に、駐車場管制システム等の官民共同設備の更新を行いました。

(イ) 浜松市楽器博物館

世界の楽器とその文化を紹介するというコンセプトと使命を持つ日本最大級の公立楽器博物館として活動を行いました。

企画展事業は次の4本を実施しました。浜松の楽器産業の原点であるリードオルガンの文化的意義を紹介した「リードオルガンという文化～日本が洋楽と出逢った時～」では、単なる楽器の構造論や日本での製作史にとどまらず、教育界や音楽界における文化的意義をとらえた点が各方面から高い評価をいただき、浜松ならではの質の高い展示となりました。企画展「絵画の中の楽器たち」では、日本画・洋画の秀作を展示し、楽器博物館と絵画作品とのコラボレーションのあり方を示しました。また、この展示会を機として作者が絵画を寄贈、博物館コレクションの拡充につながりました。浜松国際ピアノコンクールを記念した企画展「ピアノヒストリー」、国民文化祭を記念した企画展「素晴らしき哉、ハーモニカ！」も時宜を得た展示内容で好評を得ました。

レクチャーコンサートは全16回を企画・実施いたしました。特にピアノコンクールと連動した「プレイエル・ピアノによるショパンピアノ協奏曲」は、中ホールを会場に、浜松市楽器博物館所蔵の1830年製オリジナル・プレイエル・ピアノと弦楽によるピアノ協奏曲の演奏を実現、聴衆やコンクール関係者からも高い評価を得、浜松ならではのコンサートとなりました。また、世界遺産「琴」やアイヌの民俗楽器「トンコリ」、琉球の「御座楽」など、商業ベースではない文化的価値の高いコンサートを紹介しました。

講座の新シリーズ「民族音楽紀行」では、ヨーロッパ文化の深層を8回にわたってとりあげ、現代の音楽文化の基層を紹介し、博物館にふさわしい講座となりました。

所蔵楽器を演奏してのCDは次々と朝日新聞や毎日新聞の推薦盤、レコード芸術誌やバンドジャーナル誌等の特選盤に選ばれるなど、専門的見地から高い評価を受けました。

入館者数は86,512人にのぼり、付帯事業の参加者を含めると約200,000人の利用者数を達成いたしました。

(ウ) クリエイト浜松（中部公民館及び文化コミュニティセンター）

今年度はクリエート浜松を生涯学習の拠点とすべく、ソフト事業の充実を図りました。主な主催事業として、モザイカルチャー世界博および浜松国際ピアノコンクールに関連した親子対象のアートフラワー作り、幼児の保護者を対象とした離乳食講座、児童への料理教室、囲碁教室、カルタ大会、中高生のコミュニケーションを目的とした百人一首大会、大学生の食育講座を行い、900人を超える参加者を得ました。

また、当館利用サークル、同好会、ギャラリー利用の市内文化団体などを支援する目的で、「はまかるドットネット」での紹介のほか館内モニタでの案内もはじめました。これらのコンテンツ作成のための取材を随時行うことにより、職員と市内の文化グループとのつながりも強化することができました。その結果、施設の利用状況につきましては、前年度を上回る44万2千人ほどの利用者がありました。企業のアウトソーシング化、地域支店のフランチャイズ展開等により会議や研修が増えたこと、国民文化祭の会場としての借り上げ、展示等への市民の来館があったことなども利用増加の要因として考えられます。

一方では、利用者の高齢化、外国人の帰国などによる同好会の解散や定期利用の減少もあるため、特別会議室に「ミーティングルーム」という愛称を付けて利用料金の値下げを行うとともに、今後も新たな利用者層、年齢層への利用促進を図っていきます。

(エ) 浜松科学館

「科学する心を育てる」を念頭におき、「魅力ある事業がある・魅力ある展示品がある・魅力ある人がいる」科学館を目指しました。

常設展及びプラネタリウムを約9万4千人が観覧するとともに、講座や学校連携事業など36本の主催事業では1万7千人ほどの参加者を得ました。ヤマハ発動機、ローランド株式会社など地域の企業の協力を得て、展示物の充実も図りました。また、科学学習情報システム

の更新により、新しいロボット「ブルー夢」が登場しました。小型展示案内端末「U4」も導入され、来場者に活用されています。

プラネタリウムは、一般番組として「バースオブガイア 地球誕生ものがたり」「宇宙エレベータ」を、オリジナル番組として7つの番組を投影しました。職員による星空案内やオリジナル番組の制作はお客様に大変好評であり、レクチャーの技術など、今後も研鑽を積んでいきます。

冬季に開催した「第14回おや！なぜ？横丁」は、インフルエンザの流行により参加者は前年度より減少しましたが、新たに出展する企業、学校が増加するなど、地域との連携をさらに深めることができました。今後も引き続き科学のおもしろさ、ものづくりの楽しさを味わえるイベントとして定着させていきます。

アウトリーチ活動である出張授業「ゴーゴーおもしろサイエンス」では、前年度より5校多い市内20の小学校に出掛けたほか、財団の管理施設である浜北文化センターや天竜壬生ホールを活用して科学体験に対する意欲付けを行うとともに、来館の機会の少ない地域の児童に対しても、浜松科学館を紹介する機会としました。

夏の特別展「ロボワールド2009～最先端のロボットが大集合～」は、日替わりで様々なイベントを開催し、4万6千人の来場者を得ましたが、この来場者数がそのまま常設展の観覧者数増へとはつながりませんでした。経済状況の悪化のためか、有料となる保護者が常設展に入館しない傾向があり、今後の課題となりました。

(オ) 浜松こども館

「本来誰もが持っている“生きる力”が輝くために、子どもたちも大人たちもありのまま、多くの様々な人々に関わりを持つ場とする」という基本方針のもと、学校のインフルエンザ対策で児童の外出が控えられた中でも16万7千人以上に入館いただくとともに、館外での活動も含めて4万2千人ほどの事業参加者を得ました。

特に、これまで培ってきた事業と環境を、浜松市内全域に広めるため「移動こども館」に力を入れ、財団が管理している天竜壬生ホールや浜北文化センターほかで「音出しはじめの一步」と「赤ちゃん大集合」を年11回、保育園・幼稚園・特別支援学校を対象に「ねんどがドーン」を年4回実施しました。それぞれの地域でこども館の活動と理念に接していただきました。

大人向け事業としては、好評の「やさしいヨーガ」に加え、子育て中の保護者及びマタニ

ティの方を対象に、「食のきほん」を新たに実施しました。身近な素材、伝統的な知恵について、実際に手に触れ、味わうことを通して、食文化について考えるきっかけとしました。

また、「地域の遊び場」「異年齢交流」を広げる取り組みとして、夏休み特別事業「むすぶんジャー あそぶんジャー」を行い、近隣の老人会等の協力により、お年寄りと交流しました。

その他、「自然の力を知ろう」では、屋上で野菜を育て、来館者と共に収穫、実食をしたり、夏場のエコロジー対策としてゴーヤによる緑のカーテン（第12回浜松市花いっぱいコンクール「緑のカーテンの部」優秀賞受賞）の取り組みも行いました。

第24回国民文化祭・しずおか2009では、「キッズアートフェスティバル・遊びの文化フェスティバル」に参加しました。主会場のツインメッセ静岡で「モクモクつみき」を行い、初めて市外で実践を通じた施設PRをするとともに、サテライト会場のこども館では「ねんどがドーン」を実施しました。

3月には事業の集大成として、「子どもが子どもらしくいられる大人のかかわり」をテーマに、『浜松こども館ミーティング』を開催し、運営アドバイザー、市内保育関係者、ボランティア、利用者、職員約40名が討論する中で、子どもの遊び・生活環境について地域の様々な立場の人たちと連携し、考えていくことの重要性を改めて確認しました。

（カ） 浜松文芸館

「より広い年齢層に親しまれる浜松文芸館づくり」をテーマに、13種類の「文芸講座」、5本の「企画・収蔵展」、2本の「講演・朗読会」を開催しました。

文芸講座関係では、「少年少女俳句教室」や「詩を書こう」「声であらわす文学作品」を新しい感覚で企画しました。「詩」「声であらわす」では講座終了後、参加者による同好会が作られ浜松文芸館をベースに活動が開始されました。また「村上春樹研究会」の開催では30歳代の参加者が主力となり、浜松文芸館の活動の新しい可能性の発見がありました。

企画展では市民愛好団体との協同企画「古くて新しいたのしい掛軸展」では来館者が自宅にある掛軸や古文書などを持ち寄り、文芸に対する興味の幅を広げました。夏休みを中心に開催した「文芸と額縁アート展」では小学生による額縁作り講座を開催しました。前・後期に分けて開催した「特別収蔵展」では浜松美術館、浜松中央図書館の協力を得て、内田六郎コレクションの一部を展示することができました。11月からは「強奪箱根駅伝はこうして書かれた・安東能明展」では、日本テレビの協力で最新の箱根駅伝ポスターを文芸作品の展示と同時に観ていただきました。

安藤能明氏の講演と中原中也作品の朗読会も開催しました。

(キ) 浜松市旧浜松銀行協会（木下恵介記念館を含む。）

浜松市指定有形文化財である旧浜松銀行協会は、平成 21 年 12 月 5 日（木下恵介誕生日生誕 97 年）に一般市民への公開オープンが始まり、同時に、フォルテからの移転が決まっていた木下恵介記念館が建物内に再オープンしました。建物内には設計者である中村與資平の資料室も常設しました。

再オープンした木下恵介記念館では「映画作品資料展」「木下恵介の書齋（再現）」「木下恵介と浜松（恵介三弟妹）」の大きく三つのテーマを持った展示コーナーを持ち、さらに VTR による作品閲覧ブース（3 席）を常設しました。また、毎月一回木下恵介映画作品上映会が開催される他、出張上映会として市内ディケアセンターや地域で活動する市民団体との協働による上映会も行いました。

再オープニング式典には市長をはじめ木下忠司氏、山田太一氏、松竹関係者に出席をいただき、浜松ゆかりの芸術家黒田晋也氏の歌唱が華を添えました。また、年明け 1 月には NHK の番組「こころの遺伝子」取材のため、三國連太郎さんが来館され、3 月末の放送後は広い地域から問い合わせや来場をいただくなどの反応がありました。

(ク) 浜松市天竜壬生ホール

北遠地域の文化振興を目的として 10 本の主催事業を行い、約 3 千人の参加がありました。指定事業の他に「遠州太鼓夏の陣」を開催し、地域に根付く伝統の和太鼓をライブコンサートの形で紹介しました。市民が参加できる事業としては、音楽の発表会である「未来の音楽家コンサート」に 19 組が出場したほか、「市民芸術展示会」では 23 名の市民による絵画、写真、造形美術が出品されました。

また、県文化財団と共催した文化体験事業「走れメロス」に近隣の小学生を無料招待したほか、浜松こども館や浜松科学館が行う出張事業の会場としても活用し、こどもを対象としたアウトリーチ活動に力を入れました。

開館して 7 年が経ちましたので、経年劣化した備品、設備の修理・修繕を積極的に行いました。高額な修繕箇所については市と協議を行い、エントランスゲートデッキは市の費用により総張替えをしました。そのほか、草刈・高木の剪定に努め、外回りの美観整備を行いました。

(ケ) 浜松市浜北文化センター

浜北地域での文化振興の拠点とすべく、5本の自主事業を開催いたしました。

開館当初からの継続事業である「第79回浜北文化講演会」や「第27回浜北寄席」を開催し、社会教育の場、伝統芸術文化鑑賞の場として好評を得たほか、「めざましクラシックス」やピアノコンクール関連事業「ピアノと花の華麗なる世界～假屋崎省吾×横山幸雄」では、早々にチケット完売となり、プロアーティストの演奏を多くの方にご覧いただくことができました。

また、浜松こども館と連携して、赤ちゃん連れを対象とする無料のクラシックコンサート「ゆるやかコンサート」を3回開催するとともに、「アクトシティポップスオーケストラ吹奏楽 ワークショップ」では地域の高校生向けに吹奏楽の指導を行うなど、施設を幅広く生涯学習の場として活用いたしました。

貸し館事業については、今年度から利用料金制が導入されました。利用料金収入は約3千200万円、収入に占める割合は約28%となりました。また、修繕等の必要な施設、設備について、浜松市と協議の中で整備を進めるとともに、浜松市公共予約システム「まつぼっくり」を活用しながら、利用者の快適な利用環境の確保に努めました。

(コ) 浜松市森岡の家

同心遠慮講の歴史など情報提供等を行うとともに、建物等の修繕を始め、樹木の適切な育成、管理を行い、環境整備に努めました。

なお、施設が耐震基準を満たさないため、本年度から見学のみ利用といたしました。

ク 埋蔵文化財の発掘及び調査

8遺跡の発掘調査や整理作業、報告書の作成を行いました。

(2) 会議に関する事項

ア 理事会議決事項

議決番号	開催年月日	件名
第22号	21. 6. 22	平成20年度財団法人浜松市文化振興財団事業報告及び会計報告について
第23号	21. 6. 22	財団法人浜松市文化振興財団公印規程の一部改正について
第24号	21. 6. 22	財団法人浜松市文化振興財団役員の報酬等に関する規程の一部改正について
第25号	21. 6. 22	財団法人浜松市文化振興財団職員就業規程の一部改正について
第26号	21. 6. 22	財団法人浜松市文化振興財団職員給与規程の一部改正について
第27号	21. 6. 22	財団法人浜松市文化振興財団嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の一部改正について
第28号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団評議員の選任について
第29号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団組織規程の一部改正について
第30号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団所管施設業務規程の一部改正について
第31号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団公印規程の一部改正について
第32号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団役員の報酬等に関する規程の一部改正について
第33号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団職員就業規程の一部改正について
第34号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団職員給与規程の一部改正について
第35号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の一部改正について
第36号	21. 12. 21	浜松市立中部公民館及び浜松市文化コミュニティセンター利用料金規程の一部改正について
第37号	21. 12. 21	浜松文芸館及び木下恵介記念館利用料金規程の一部改正について
第38号	21. 12. 21	浜松市旧浜松銀行協会利用料金規程の制定について
第39号	21. 12. 21	公益法人移行に関する基本方針について
第40号	21. 12. 21	公益財団法人への移行に伴う最初の評議員の選任方法の制定について
第41号	21. 12. 21	財団法人浜松市文化振興財団評議員選定委員会運営規則の制定について
第1号	22. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団組織規程の一部改正について
第2号	22. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団職員就業規程の一部改正について
第3号	22. 3. 24	財団法人浜松市文化振興財団職員給与規程の一部改正について

第4号	22.3.24	財団法人浜松市文化振興財団会計規程の一部改正について
第5号	22.3.24	財団法人浜松市文化振興財団嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の一部改正について
第6号	22.3.24	財団法人浜松市文化振興財団職員等の育児休業等に関する規程の一部改正について
第7号	22.3.24	財団法人浜松市文化振興財団情報公開規程の一部改正について
第8号	22.3.24	財団法人浜松市文化振興財団個人情報保護に関する規程の制定について
第9号	22.3.24	平成21年度財団法人浜松市文化振興財団補正予算について
第10号	22.3.24	平成22年度財団法人浜松市文化振興財団事業計画について
第11号	22.3.24	平成22年度財団法人浜松市文化振興財団予算について
第12号	22.3.24	財団法人浜松市文化振興財団評議員の選任について
第13号	22.3.24	財団法人浜松市文化振興財団理事長の互選について

イ 評議員会議決事項

議決番号	開催年月日	件名
第3号	21.12.21	財団法人浜松市文化振興財団理事の選任について
第1号	22.3.24	財団法人浜松市文化振興財団理事の選任について

(3) 役員に関する事項

ア 役員（平成22年3月31日現在）

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	庄田 武	評議員	石村和清
副理事長	丹羽稔夫	評議員	中山正邦
常務理事	齋藤慎五	評議員	田代 剛
理事	御室健一郎	評議員	山崎貴裕
理事	梅村 充	評議員	澤野幸廣
理事	河合弘隆	評議員	河嶋英典
理事	山内啓司	評議員	大石好孝
理事	竹内善一郎	評議員	池町克徳
理事	星野悦夫	評議員	鈴木理久
理事	畑すみ子	評議員	吉岡克己
理事	杉田 豊	評議員	横原 幸
理事	須藤京子	評議員	高松良幸
理事	飯田彰一	評議員	西田かほる
理事	伊藤修二	評議員	石田美枝子
監事	大石清美		
監事	鈴木不二		

イ 役員の異動

(ア) 就任

役職名	氏名	就任日	役職名	氏名	就任日
理事	梅村 充	21. 4. 1	評議員	池町克徳	21. 4. 1
理事	河合弘隆	21. 4. 1	評議員	石田美枝子	21. 4. 1
理事	杉田 豊	21. 4. 1	評議員	石村和清	21. 4. 1
理事	須藤京子	21. 4. 1	評議員	大石好孝	21. 4. 1
理事	竹内善一郎	21. 4. 1	評議員	川井孝啓	21. 4. 1
理事	本多美智子	21. 4. 1	評議員	河嶋英典	21. 4. 1
理事	御室健一郎	21. 4. 1	評議員	澤野幸廣	21. 4. 1
理事	山内啓司	21. 4. 1	評議員	鈴木理久	21. 4. 1
理事	星野悦雄	21. 4. 1	評議員	高松良幸	21. 4. 1
理事	丹羽稔夫	21. 4. 1	評議員	田代 剛	21. 4. 1
理事	飯田彰一	21. 4. 1	評議員	中山正邦	21. 4. 1
理事	庄田 武	21. 4. 1	評議員	西田かほる	21. 4. 1
理事	齋藤慎五	21. 4. 1	評議員	望月聖之	21. 4. 1
理事	畑すみ子	21. 12. 21	評議員	横原 幸	21. 4. 1
理事	伊藤修二	22. 3. 24	評議員	吉岡克己	21. 12. 21
監事	大石清美	21. 4. 1	評議員	山崎貴裕	22. 3. 24
監事	鈴木不二	21. 4. 1			

(イ) 辞任 (任期満了も含む)

役職名	氏名	辞任日	役職名	氏名	辞任日
理事	本多美智子	21. 12. 21	評議員	川井孝啓	21. 12. 21
理事	庄田 武	22. 3. 31	評議員	望月聖之	22. 3. 24

(4) 職員に関する事項

区 分	人数()は兼務		備 考
	平成22年3月31日現在	平成21年3月31日現在	
事務局長	1	1	事務員1(うち浜松市職員1)
事務局次長	1	1	事務員1
総務課長	1	1	事務員1
主幹	4	2	事務員4
主任	2	2	事務員2
係員	3	3	嘱託員3
総務課経営室長	—	(1)	
主幹	—	2	
事業課長	1	1	事務員1
主幹	4	2	事務員4
主任	3	3	事務員3
係員	14	8	事務員4 嘱託員10
音楽推進課長	—	(1)	
主幹	—	2	
係員	—	5	
アクトシティ浜松管理課長	(1)	(1)	事務局長兼務
主幹	2	2	事務員2
主任	1	1	事務員1
係員	9	8	事務員5 嘱託員4
楽器博物館 館長	1	1	事務員1
主幹	1	1	事務員1
係員	8	7	事務員1 嘱託員7
クリエート浜松 館長	1	1	事務員1
主幹	0	1	
主任	1	1	事務員1
係員	7	5	事務員1 嘱託員6
科学館 館長	1	1	嘱託員1
主幹	3	3	事務員3(うち浜松市職員2)
主任	1	1	事務員1
係員	17	17	嘱託員17

こども館 館長	1	1	嘱託員1
主幹	0	1	
主任	1	1	事務員1
係員	14	14	事務員2 嘱託員12
文芸館 館長	(1)	(1)	事務局次長兼務
係員	2	2	嘱託員2
木下恵介記念館 館長	(1)	(1)	事務局次長兼務
係員	2	1	嘱託員2
天竜壬生ホール 館長	(1)	(1)	事務局長兼務
係員	1	1	嘱託員1
浜北文化センター、 兼森岡の家 館長	1	1	嘱託員1
係員	3	2	事務員1 嘱託員2
計	112	107	
会計責任者	(1)	(1)	事務局長
出納員	(11)	(12)	課長及びアクトシティを除く館長

※平成21年度は「総務課経営室」を廃止し、「音楽推進課」を「事業課」に統合。